

下水道BCP策定マニュアル改訂の方向性

現行マニュアルにおける主な課題

- ▶ 広域かつ長期的な被害をもたらした津波事象を追加する必要。
- ▶ マニュアルの使い勝手向上を図る為の事項について整理

マニュアル改訂に向け記載する主な事項

津波や大規模地震に対する被害想定

- ▶ 阪神淡路大震災や中越沖地震等での下水道施設の地震動による被害事例を掲載するとともに、震度や被災施設の建設年度、規模等を掲載。
- ▶ 東日本大震災での津波による下水道施設の被害事例を掲載するとともに、海岸からの距離と浸水高、規模等を掲載。

【大規模地震を懸念する自治体】

被災事例（建設年度、施設規模、震度、被災内容等）と所有施設とを見比べることで、被災内容をイメージすることが可能。

【大規模地震に加え津波を懸念する自治体】

被災事例（海岸からの距離、浸水高、被災内容等）と所有施設とを見比べることで、被災内容をイメージすることが可能。

マニュアルの使い勝手向上

▶ 現行マニュアルを用いてBCPを策定済み（もしくは策定中）の自治体に対し、現行マニュアルの改善点についてヒアリングを行ったところ、「復旧対応の具体事例等の記載が無く、各事項についてイメージしにくい」との意見を戴いた。そこで、東日本大震災での事例を掲載するとともに、各自治体が計画策定する際の留意点を記載。

事例1：避難誘導と職員等の安否確認

事例2：機動的な公衆衛生の確保

事例3：浸水被害の防除対策

事例4：

